



## ママコチャ Mama Cocha

牝 鹿毛 2019.4.5生  
北海道安平町 ノーザンファーム生産  
馬主・金子真人ホールディングス(株) 栗東・池江泰寿厩舎  
馬名意味・インカ神話の海の女神

ウェイブウインドUSA系 F2-w

クロフネUSA Kurofune 芦毛 1998	French Deputy 栗毛 1992	Deputy Minister Mitterand
	Blue Avenue 芦毛 1990	Classic Go Go Eliza Blue
	キングカメハメハ 鹿毛 2001	Kingmambo マンファスIRE
ブチコ 白毛 2012	シラユキヒメ 白毛 1996	サンデーサイレンスUSA ウェイブウインドUSA

5代までのインブリード：Northern Dancer S5×M5

## INTERVIEW

橋口敦史 厩舎長(ノーザンファーム空港)

### また大きなタイトルを期待しています

中間を管理してくれていたノーザンファームしがらきのスタッフからは、「今シーズンはいつもの冬よりもいい状態で調整できている」と聞いていました。パドックを周回する姿からも状態の良さがうかがえましたし、メンバー的にも勝ち負けの競馬を期待していました。このあとのGⅠに向けて弾みのつく結果になったので、また大きなタイトルを期待しています。

T.Miki



毛色は異なるものの、白毛の女王ソダシの全妹にあたる本馬(鹿毛)の素質はスプリント路線で開花。4歳時にはスプリンターズSを制し、最優秀スプリンターにも選出された。その後は勝ち切れないレースが続いた半面、コンスタントに上位入着を重ね、この日は一枚上の底力を示して1年5カ月ぶりの白星を奪取。再度の戴冠に挑む高松宮記念へ向けて弾みをつけた。

利を掴んだ。毛色は異なるものの、白毛の女王ソダシの全妹にあたる本馬(鹿毛)の素質はスプリント路線で開花。4歳時にはスプリンターズSを制し、最優秀スプリンターにも選出された。その後は勝ち切れないレースが続いた半面、コンスタントに上位入着を重ね、この日は一枚上の底力を示して1年5カ月ぶりの白星を奪取。再度の戴冠に挑む高松宮記念へ向けて弾みをつけた。

## 父クロフネUSA

中央10戦6勝(NHKマイルC<sub>Ⅰ</sub>、ジャパンCダートG<sub>Ⅰ</sub>、毎日杯G<sub>Ⅲ</sub>、武蔵野S<sub>Ⅲ</sub>、神戸新聞杯G<sub>Ⅲ</sub>3着)、最優秀ダートホース、02年から供用、20年引退、21年死亡〔代表産駒〕ソダシ(後出)、カレンチャン(スプリンターズS<sub>Ⅰ</sub>)、ホエルキャブチャ(ヴィクトリアマイルG<sub>Ⅰ</sub>)、スリープレスナイト(スプリンターズS<sub>Ⅰ</sub>)、ママコチャ(本馬)、フサイチリシャール(朝日杯フューチュリティS<sub>Ⅰ</sub>)、アエロリット(NHKマイルC<sub>Ⅰ</sub>)、クラリティスカイ(NHKマイルC<sub>Ⅰ</sub>)、他に重賞勝ち馬多数

## 母ブチコ

北海道安平町 ノーザンファーム生産 中央16戦4勝(上総S)

ソダシ(18 牝父クロフネUSA)中央16戦7勝(桜花賞G<sub>Ⅰ</sub>、阪神ジュベナイルフィリーズG<sub>Ⅰ</sub>、ヴィクトリアマイルG<sub>Ⅰ</sub>、札幌記念G<sub>Ⅲ</sub>、アルテミスS<sub>Ⅲ</sub>、札幌2歳S<sub>Ⅲ</sub>、ヴィクトリアマイルG<sub>Ⅰ</sub>2着、アイルランドトロフィー府中牝馬S<sub>Ⅲ</sub>2着、マイルチャンピオンシップG<sub>Ⅰ</sub>3着、フェブラリーS<sub>Ⅰ</sub>3着)、最優秀2歳牝馬、最優秀3歳牝馬

ママコチャ 本馬(19 牝父クロフネUSA)中央19戦7勝(スプリンターズS<sub>Ⅰ</sub>、オーシャンS<sub>Ⅲ</sub>、安土城S・L、納屋橋S、豊栄特別、セントウルS<sub>Ⅲ</sub>2着、北九州記念G<sub>Ⅲ</sub>2着、エルフィンS・L2着、ファンタジーS<sub>Ⅲ</sub>3着)、最優秀スプリンター 獲得総賞金391,741,000円

(20 不受胎)

カルパ(21 牝父モーリス)中央16戦1勝 ⑩

エスタア(22 牝父モーリス)中央2戦0勝 ⑩

マルガ(23 牝父モーリス)

(24 牝父ニューイヤーズデイUSA)

## 祖母シラユキヒメ

北海道早来町 ノーザンファーム生産 中央0勝。17年用途変更

ホワイトベッセル(04 牝父クロフネUSA)中央3勝

ユキチャン(05 牝父クロフネUSA)中央2勝(ミモザ賞)、地方3勝(関東オークス<sub>Ⅱ</sub>、TCK女王盃<sub>Ⅲ</sub>、クイーン賞<sub>Ⅲ</sub>)、NAR最優秀牝馬、アマンデピアンコ(羽田盃<sub>Ⅰ</sub>)の母、メイケイエール(セントウルS<sub>Ⅲ</sub>、京王杯スプリングC<sub>Ⅲ</sub>、チューリップ賞<sub>Ⅲ</sub>)の祖母

マシュマロ(09 牝父クロフネUSA)中央2勝、地方0勝、ハヤヤッコ ⑩(アルゼンチン共和国杯G<sub>Ⅲ</sub>、函館記念G<sub>Ⅲ</sub>、レパードS<sub>Ⅲ</sub>)の母

ブチコ(12 前出)

シロニイ(14 牝父キングカメハメハ)中央4勝(くすのき賞)

## GⅠ馬の貴祿で1年5カ月ぶりの白星

近年の動向を踏まえて前哨戦と本番のレース間隔が見直された今年、高松宮記念のステップと位置付けられているスプリント重賞・オーシャンSは従来の日程から1週間繰り上げられ、春の中山開催の開幕週に行われた。出走馬中唯一のGⅠウィナーに、同舞台の2勝クラス戦、3勝クラス特別を連勝中のステークホルダー、ラピスラズリスの覇者で重賞初制覇に挑む4歳馬ベアポルックスなどの新興勢力が挑む図式が描かれたレースは前者に軍配。断然の支持を集めた6歳牝馬ママコチャがさすがの貴祿を示し、久しぶりの勝利を飾った。

師の「ラストラン」が交錯した3月の1週目。定年を迎える木原一良調教師の管理馬テイエムスパードがやはりこの日も先手を主張、手綱を押して押して飛び出し、主導権を握る。出足に優れたベアポルックスはこれを先に遣って2番手に控え、ママコチャの川田将雅騎手は直後の3番手を追走。ゲート内の駐立が悪く、スタートで立ち遅れたステークホルダーは中国で末脚を温存し、反撃の機会を窺った。

前半600mの通過が33秒7と比較的、落ち着いた流れで進んだレースが動いたのは4コーナー。抑えきれない勢いでテイエムスパードをかわし、先頭に立ったベアポルックスが加速してリードを広げにかかる。しかし直線半ばでは3馬身ほど水をあけられたママコチャも懸命に巻き返し、最後は2頭の一騎打ちに。坂の上りから着実に差を詰めたママコチャが、しぶとく食い下がるベアポルックスをねじ伏せて勝利を掴んだ。

新人騎手のデビューと引退する調教